

蔵書

1. 図書資料

館内用図書

館内にある資料は、一般資料(人文・社会・自然)、地域資料、新聞・雑誌、児童図書に分かれています。収集の方法は大きく分けて購入と寄贈の二通りです。特に地域資料においては寄贈が大きな割合を占めていますので、福島県に関する資料や県出身者が出版した資料の情報を、常時広く集めています。

また、寄贈の中でも特に文化価値が高いと判断されるものを、特殊文庫として保存しています。特殊文庫には二本松出身の歴史学者朝河貫一関連資料をはじめ、以下の個人収集の文庫があります。

佐藤文庫 13, 378冊

右記を参照

放江文庫 849冊

福島民友新聞記者であった故富士崎放江氏が収集した蔵書。主に江戸期の文学随筆。

井筒文庫 271冊

故井筒平氏が収集した、主に犬に関する文献。

小野崎文庫 13, 500冊

弁護士であった故小野崎正明氏による法律関係の蔵書。

堀切文庫 7, 274冊

弁護士だった故堀切真一郎氏による法律関係の寄贈図書。

中島文庫 8, 105冊

仏文学者、評論家であった故中島健蔵氏の蔵書。主に文学書や中国・南方関係。

佐藤清太文庫 4, 358冊

大学教授であった故佐藤清太氏の蔵書。主に漢籍と教育学に関する文献。

信田文庫 2, 400冊

信田純男氏寄贈の社会科学関係の文献。

福島県詩人文庫 2, 500冊

詩人であった故高橋新二氏による寄贈資料。詩関係が中心。

特殊文庫についての問い合わせは、全国各地からきています。



佐藤文庫

佐藤文庫は、戦争に関する大変貴重な資料です。この文庫は、郡山市の卸商、佐藤商店（現佐藤株式会社）の3代目佐藤伝吉氏（1887～1967）が、生涯を賭けて収集したものです。

戦前は帝国陸海軍、戦後はGHQや防衛大学などからの譲渡の申し入れがありました。が、すべて拒否し続けました。県立図書館には1961年に移管が決定し、佐藤氏逝去後の1968年、総数1万3378冊の戦争関係資料が正式に遺族から寄贈されました。

文庫全体の30%が中・英・独・仏・露など外国語の資料で、図書だけではなく、新聞・雑誌・写真集・錦絵・画帖なども含まれています。

内容は、日清・日露戦争、太平洋戦争、第一次・第二次世界大戦の資料から日本及び各国の国防政策、戦史、軍事医学、戦争文学に関する記録・文献にまで及んでいます。特に日清・日露戦争関係の資料は充実していて、防衛庁防衛研究所図書館でも所蔵していない資料があります。

県立図書館では、佐藤文庫の整理のために司書2名を充て、独自の佐藤文庫分類を作成し、1965年に佐藤文庫目録、1967年に追加目録を完成させました。

佐藤文庫の主な貴重資料

稿本『日清戦史』『日清戦争』

参謀本部から公式記録として出された『明治二十七、八年日清戦史』の草案です。ここには、公式記録で偶発的とされていた朝鮮王宮占領事件が、実は陸軍の謀略であったことを記しています。

現在、この資料はCD-ROM、マイクロフィルムでも公開されています。また、当館ホームページ「デジタルライブラリー」でもご覧になれます。

『松山収容露国俘虜』

日露戦争当時、愛媛県松山市にあった松山収容所に収容されていたロシア人捕虜の記録です。発行後すぐに回収されたため、一般には配布されず、最近まで地元愛媛でも所蔵されていなかった資料です。

館外用図書

移動図書館など館外サービス用に利用する図書で、文学書、実用書、児童書等からなっています。

2. 視聴覚資料

福島県に関するものを中心に収集しています。内容は映画フィルム、スライド、レコード、録音テープ、ビデオテープなど保存資料として価値の高いものの収集に努めています。また、これらの資料を時代が経っても再生出来るよう、視聴覚資料室には様々な再生機器を用意しています。